

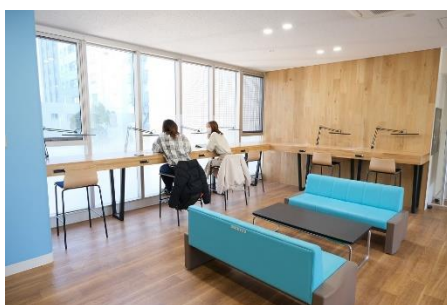
学生等の学びの拠点である講義実習棟は、昭和50年に竣工し、多くの諸先輩が研鑽を積み、49年が経過しました。

老朽化した建物の長寿命化改修と、この先20年、30年の未来を見据えた教育環境を整えるため、多機能かつフレキシブルな学修環境およびICT環境に対応できる施設として新たに生まれ変わるため、令和3～5年度の施設整備により改修整備を実施しています。

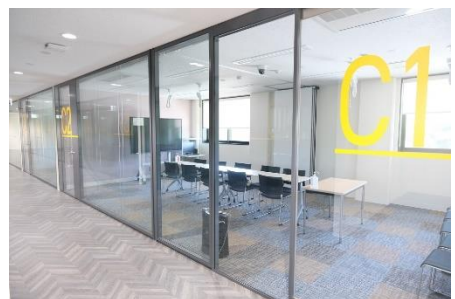
この3年間の整備により続々とリニューアルしている講義実習棟の教室群のうち、チュートリアル室、フラット教室などの概要とともに、この建物のイノベーション・コモンズ化による『共創』拠点としての役割について紹介します。



講義実習棟外観



ホールラウンジ



チュートリアル室

ICT技術により、多様な双方向教育が行える学修空間。アクティブラーニングの場として活用



フラット教室

さまざまな型の授業に対応可能。ICT環境を加えたハイブリッドな学修スペース

キャンパスのイノベーション・コモンズ化

～各分野と連携し、共に創造活動を展開できる「共創」拠点の実現～

浜松医科大学では、行動科学、医療倫理、EBM(根拠に基づく医療)などの医学教育必須の分野について、卒業まで段階的に学修する「6年一貫らせん型カリキュラム」を実施しています。

今回の改修により導入したICTを活用し、教育の拠点である「講義実習棟」を中心として医療現場・研究・産業界・海外など各拠点との連携を強化します。さらに、バーチャル教育、WEB授業および学生と教員が討論して思考する授業などをらせん型カリキュラムに組み合わせることで、従来の一方向の教育から、双方向教育(アクティブラーニング)とICT環境を加えた「ハイブリッド学修」へと進化させ、教育活動をより活性化させます。

現在、令和4年4月に開設した次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)によるアントレプレナーシップ教育の講義を導入しています。また、静岡大学情報学部との連携によりデータサイエンス・AI教育を進めています。これらを両輪とし、起業家精神をもった医療人、デザイン思考に基づく医療機器開発を行う素養をもった人材など、社会の課題解決に挑戦する人材を育成します。

